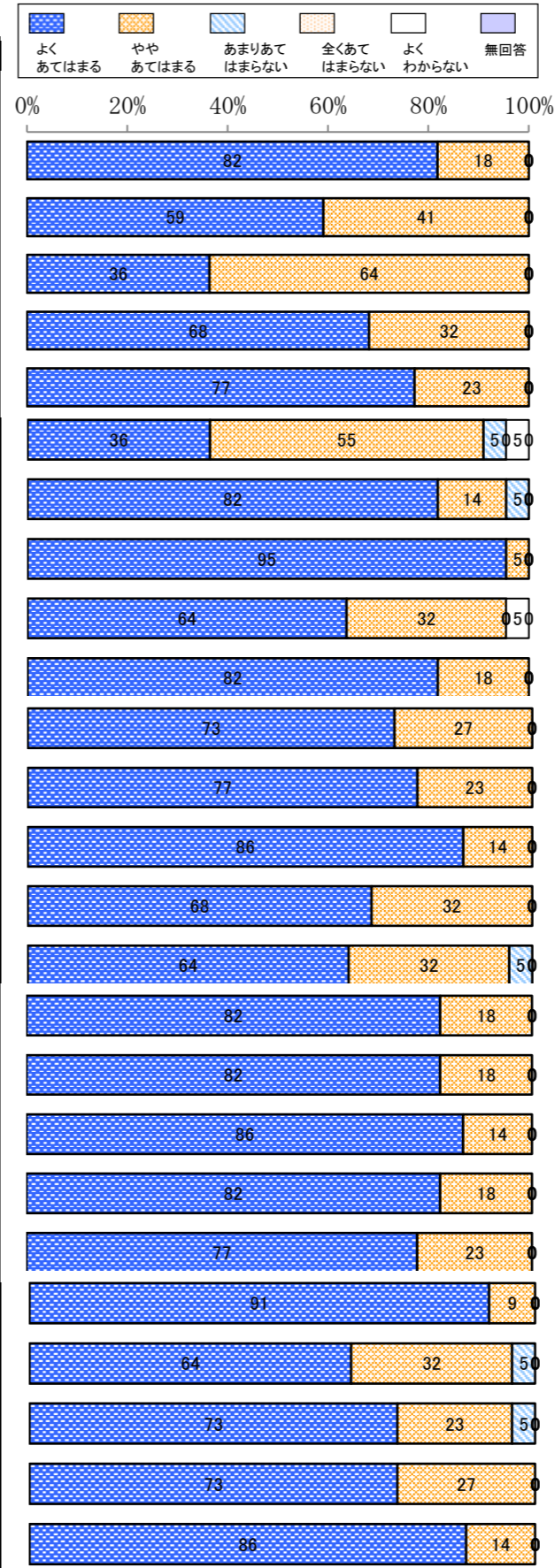


		アンケートの結果		上段：児童 下段：保護者等 グラフ：教職員					
		A	B	C	D	よく分らない	無答		
学校全体の様子	1 教育目標・方針	40 42	43 51	13 6	1 0	2 2	0 0		
	2 児童・生徒の様子	74 42	20 54	4 3	1 0	1 1	0 0		
	3 基本的な生活習慣	48 23	41 59	8 17	2 0	1 1	0 0		
	4 児童・生徒理解	45 36	39 52	12 7	2 1	2 4	0 0		
	5 健康・安全・安心	69 52	21 45	7 1	2 1	1 1	0 0		
学力向上の取組	6 分かる授業	61 36	29 49	6 8	3 1	1 6	0 0		
	7 個に応じた指導	66 40	24 46	6 8	2 1	1 6	0 0		
	8 学習習慣	68 45	21 48	7 3	2 1	2 3	0 0		
	9 情報教育	70 48	24 38	5 6	1 0	1 8	0 0		
	10 学校図書館の活用	74 57	20 36	3 4	1 0	1 3	0 0		
社会性・人間性の育成	11 人権教育	67 28	28 48	4 10	1 1	1 12	0 0		
	12 道徳教育	45 29	38 53	11 6	2 1	4 11	0 0		
	13 教育相談	47 27	27 51	15 10	7 1	3 11	0 0		
	14 人間関係づくり	80 63	13 35	5 1	1 0	1 1	0 0		
	15 自治的な活動	65 52	27 43	5 2	1 0	1 3	0 0		
保護者・地域との連携	16 情報発信	57 46	27 48	5 5	3 0	7 1	0 0		
	17 相談への対応	53 37	33 48	7 9	4 1	3 5	0 0		
	18 学校への参加	68 55	20 38	7 5	2 1	2 1	0 0		
	19 地域との連携	44 32	36 48	12 6	5 1	3 13	0 0		
	20 意見の反映	53 24	29 47	7 9	3 1	8 18	0 0		
各学校の特色ある教育	21 学校行事の取り組み	75 57	19 36	3 3	1 0	1 3	0 0		
	22 基礎・基本の定着	65 41	26 45	7 6	1 0	2 8	0 0		
	23 調べ学習の取り組み	45 40	32 43	15 8	5 0	3 8	0 0		
	24 異学年交流の推進	57 56	28 39	9 3	3 0	2 3	0 0		
	25 学校公開の工夫	61 51	25 43	6 3	4 0	4 3	0 0		

無効票を除く(%)



無効票を除く(%)

学校の自己評価 (考察)	
○肯定群は児童保護者ともに多いが、「よくあてはまる」については教職員との開きがある。伝える機会を多くする必要がある。	
○肯定群は全体的に多いが、保護者は「ややあてはまる」が最多である。保護者の意見を今以上に聞く機会を設ける必要がある。	
△17%の保護者が否定群である。生活習慣の中でもあいさつについての課題が多いので、今後も指導を繰り返していく。	
△8割以上の児童が肯定群である一方、14%の児童が否定群である。自己肯定感を得られるような指導の工夫を充実させていく。	
○4月に実施している引き取り訓練や、月1回の避難訓練などの取り組みが認められていると思われる。	
○児童の9割が肯定群、そのうち61%が「よくあてはまる」であるので、よりわかりやすく、学習の様子を保護者に伝えていきたい。	
○児童の9割が肯定群である。算数少数指導の実施や授業での指導が児童のわかりやすさの実感につながっているものと思われる。	
○あらかわ寺子屋の実施や家庭学習の課題等で、学習機会を保障している。その一方、一部児童は家庭学習に課題を持っている。	
○電子黒板が全学級で使われており、わかりやすい授業を支えている。タブレットPCは特に高学年が様々な教科で活用している。	
○読書のためだけでなく、総合的な学習や社会科などでも調べ学習に活用している。児童の利用回数も増えてきている。	
△児童の9割が肯定群である一方、児童の4.7%、保護者の11.5%が否定群である。いじめ対策を今以上に組織的に行っていく。	
△児童の13%が否定群である。読んで考えさせるだけでなく、経験に基づいて考えさせたり、今以上に話し合わせたりする必要がある。	
△児童の22%が否定群である。担任教諭はもちろん、養護教諭やスクールカウンセラーなど、幅広く相談できる体制を伝えていく。	
○児童も保護者もおおむねよい人間関係が作れており、仲良く学校生活を送っていることがわかる。	
○高学年を中心に自治的な活動をし、下学年に引き継いでいっている。今後ますます充実させていきたい。	
○保護者はよく学校からの配布物を見ているが、伝える内容については児童の活動をわかりやすく伝えていきたい。	
△保護者の9%が否定群である。相談の内容に応じて、担任・学年・学校全体で取り組む必要がある。	
○おおむね肯定的だが、児童によっては、土曜授業や行事などに保護者が参加しないことを残念に思うこともあるようである。	
△児童が地域の行事に参加してないと感じていることが明らかになった。学校からも参加の呼びかけ等を行っていききたい。	
△保護者の10%が否定群であるとともに、分からないが18.5%であった。評価アンケートの結果の掲載等、より伝えていく必要がある。	
○児童のほとんど学校行事に主体的に参加している。活躍の様子を保護者にも期待され、励まされていることがわかった。	
○ほとんどの児童がマスタータイムを中心に基礎基本の徹底を図っている。課題のある児童は寺子屋などでも学習するように促す。	
△読書のための使用だけでなく、授業や児童個人の調べ学習での利用を推進していく。	
○低学年児童は異学年交流を楽しみにしている。高学年の進行等への不安は事前の集会をし、班長にのみ負担がかからないようにする。	
○保護者の肯定群が9割以上であることから、児童の活動や学習態度をとおりて学校の教育活動の理解が得られていると思われる。	